

2009年5月29日

石油化学事業の再編・再構築について

三菱化学株式会社

株式会社三菱ケミカルホールディングスグループの主要事業会社である三菱化学株式会社(所在地:東京都港区、社長:小林 喜光、以下「三菱化学」)は、競争力強化に向け石油化学事業の再編・再構築を進めておりますが、今般カプロラクタム事業及びスチレンモノマー事業から撤退することを決定いたしましたのでご連絡いたします。詳細は別紙の通りです。

石油化学製品は、国内需要が縮小する一方、国内外において今後中東を中心とする安価な原料を基に製造された製品との競争が激化することが見込まれ、事業を取り巻く環境は厳しさを増してまいります。

こうした事業環境を背景として、エンジニアリングプラスチックや繊維等で使用されるナイロンの原料となるカプロラクタムをはじめとするカプロラクタム事業並びにポリスチレン樹脂、ABS樹脂などのスチレン系合成樹脂、発泡スチロール、合成ゴムの原料となるスチレンモノマー事業について、これまで様々な合理化対策を実施してまいりましたが、収益の回復が見込まれないと判断したため、この度両事業から撤退することとしたものです。

なお、本日 Royal DSM N.V.と共同でリリースいたしました通り、Royal DSM N.V.が欧州を中心に展開しているポリカーボネート事業を譲り受け、同事業を拡充するとともに、ナイロン事業を Royal DSM N.V.に譲渡するべく検討を開始いたしました。今後は、事業撤退を円滑に進める一方、集中事業を中心とした石油化学事業の事業基盤強化に取り組んでまいります。

以上

【本件に関する問合せ先】

三菱化学株式会社 広報・IR室

TEL: 03-6414-3730

1. カプロラクタム事業

停止設備 ・黒崎事業所(所在地:福岡県北九州市、事業所長:鈴木 龍男)
カプロラクタム及びシクロヘキサノンプラント
・水島事業所(所在地:岡山県倉敷市、事業所長:石川 甚秀)
シクロヘキサノンプラント

停止時期 2010年3月(予定)

【事業概要】 売上高 :約140億円(平成21年3月期)
生産能力 :シクロヘキサノン 12万トン/年
シクロヘキサノン 11万トン/年
カプロラクタム 6万トン/年

注)シクロヘキサンを原料にシクロヘキサノンを、シクロヘキサノンを原料にカプロラクタムを、
カプロラクタムを原料にナイロンを製造

2. スチレンモノマー事業

停止設備 ・鹿島事業所(所在地:茨城県神栖市、事業所長:梶原 泰裕)
スチレンモノマープラント

停止時期 2011年3月(予定)

【事業概要】 売上高 :約470億円(平成21年3月期)
生産能力 :スチレンモノマー 37.1万トン/年